「居場所」

高校二年生となった今夏、私はNPO法人の寺子屋ハウスさんを訪れました。

新型コロナウイルス感染症の大流行という歴史に残るパンデミックが起きている世の中で、子供たちの居場所がないという問題が今まで以上に深刻化してきています。

元々、子ども食堂などに関心のあった母の影響でこういった問題に興味はあったものの、私の家庭は三人兄弟の5人家族で、母も自宅で仕事をしているため正直孤独や寂しさとは無縁で、こういった場所を利用したことはありませんでした。

なので、コロナで部活動などが無くなり時間が出来た今、私にも何か出来ることはないかと子供たちと交流のできる寺子屋ハウスさんの訪問を決めました。

寺子屋ハウスに行ってみると小中学生の子供たちが暖かく迎え入れてくれ、手品やたくさんの楽しい話を聞かせてくれました。流行のダンスを踊る子がいたり、みんなでお菓子を届けに来てくれるパン屋さんの所へ行ったり、活気で溢れています。もちろん体温測定や空気の換気、マスクの着用などの対策もきちんとなされています。私は勉強のサポートなどをさせて頂きながら、屈託のない笑顔で過ごしている子供たちを見てみんなにとって寺子屋ハウスは居心地の良い空間になっているのだということが感じられました。それぞれがどういった理由でここを訪れているのかは違ったとしても、家族や学校などとは違う第三の居場所として大切なコミュニティの役割を果たしていることは確かでした。

最近のニュースでは、コロナで家から出られず人との関わりを持てないストレスから、自らの髪を抜いてしまう子が居る、などの胸が痛む話を多く見かけます。やはり人間らしい生き生きとした生活を送ることに、人との直接の関わりを持つことは不可欠です。SNSなどでいつでもどこでも繋がることもできますが、直接会って同じ空間で過ごし何かを共有するということに敵うものはありません。こうしたコロナという困難な状況の中でも、この寺子屋ハウスのように環境を整えながら子供たちの交流の場を作り出してくれる機関があるのだということが世の中にもっと広まって欲しいと思いました。

居場所を必要としている子供たちがこういった第三の居場所を見つけ、生き生きとした生活を送れるようになることを強く願います。

この夏から寺子屋ハウスに参加して、子どもたちと一緒に遊んだり、勉強を見てくれる素敵な高校生のお姉さんがいます。その彼女が、とある大学の福祉エッセイのコンテスト高校生部門で賞を獲って表彰されました！！